

会員各位

宮城県保険医協会  
理事長 井上博之

### 県内3病院の統合、移転構想の撤回を求める要請署名にご協力ください

宮城県は昨年8月に県立がんセンター、仙台赤十字病院、東北労災病院の統合、移転構想を表明しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で村井知事は昨年12月、「期限を設けず、慎重に議論を続ける」との方針に軌道修正しました。

当会は3病院の統合、移転はかつてない規模の構想であり、県民への影響は計り知れず、地域医療はもとより地域そのものを疲弊させかねないとの考えから、撤回を求めるため下記の会員署名に取り組み、69筆の署名が寄せられています(5/13現在)。まだ、署名いただいていない先生はご協力をお願いいたします。

また、県内の公立・公的病院再編の動向に対して、広く会員の声を集めたいと考えています。署名に賛同しかねる先生はご意見を以下の括弧内にご記入いただき、ご返送いただければ幸いです。

( )

下記にご署名(ゴム印でも結構です)いただき、FAXにてご返信をお願い致します。

※宮城県保険医協会【FAX:022-265-0576】

宮城県知事 村井 嘉浩 殿

### 県立がんセンター、仙台赤十字病院、東北労災病院の 統合、移転構想の撤回を求める医師・歯科医師要請署名

コロナ禍により県内医療体制の不備と脆弱さが明らかになっている中で、県立がんセンター、仙台赤十字病院、東北労災病院の統合、移転構想の検討は、県民、地域住民に不安を与えています。

県立がんセンター(381床)は、県のがん診療の中核的な存在であり、同時にがん医療のプロフェッショナルを育成する中核施設です。仙台赤十字病院(400床)は、地域の基幹病院であるとともに、ハイリスクな母体胎児・超低出生体重児等を集中治療しています。東北労災病院(548床)は、地域医療の中核病院として、特色ある専門医療の提供をおこない、政策医療を担う病院としてアスベスト疾患への対応、研究を進めるなど勤労者医療の充実に取り組んでいます。3病院(計1329床)の統合は、かつてない規模の構想であり、県民への影響は計り知れないものです。設置主体も成り立ちも担う役割も立地地域も異なり、それぞれが長年の診療実績を重ね、なくてはならない存在となっています。また、2019年9月の縮小合理化対象の公立病院名公表以降、県内では県北、県南地域でも病床削減、再編の動きが加速しています。「県立がんセンターあり方検討会議」の議事録は公開されておらず、議論の内容すら県民に明らかにされていません。

効率のみを重視した統廃合が進むならば、地域医療はもとより、地域そのものを疲弊させることにつながりかねません。私たち医師・歯科医師は、以下の事項を要望いたします。

記

一、県立がんセンター、仙台赤十字病院、東北労災病院の統合、移転構想は撤回すること。

私の一言

住 所:

医療機関名:

氏 名: